

第 3 話 火星に生物がいる確率

数学の問題は、途中の考え方が間違っているとしても答の数値は合ってしまうことが少なくありません。このような場合、解答者は自分でその考え方の誤りに気づくのは難しく、それどころか 別のもっと重要な機会にこの理論の誤りが大きなミスとなって現れることがあります。

ここでは、確率の問題でその一例を示しましょう。おそらく、幸一君と同じような「幸せな人」は少なくないはずで。

るいさんとれいさんは登校途中で何やら考え事をしている幸一君を見つけました。

るい: おはよう, 幸一!

れい: おはよう, 幸一。っていうか, 何か深く考えている様子だけどどうしたの?

幸一: う, うん。実はさあ, 自分の将来のことだね…

れい: そういえば, 小さいときから宇宙飛行士になりたいとか言ってたじゃん。

幸一: うん。でも今は宇宙飛行士でなくてもいいんだ。宇宙に関する仕事だったらと思って。あーあ, NASA⁵ に行きたいなあ。

[そのとき, 後ろから今成君が現れました。]

今成: おいおい, NASA や JAXA⁶ に行きたいならまず東大だろ。お前のように, 証先生から「福山君って幸せな人ね」と言われているようじゃ無理だぜ。

俺のように勉強して賢くなれよ。じゃあな。

[今成君はさっさと前の方に行ってしまいました。]

るい: 失礼ね。幸一! 頑張って NASA に行ってよ。このままじゃ悔しいじゃん。

幸一: んー。でも別に東大だけが大学じゃないと思うけど。でも大丈夫。もうすぐみんなをびっくりさせることがあるんだ。

れい: え? 何それ?

⁵NASA: アメリカ航空宇宙局 (National Aeronautics and Space Administration)

⁶JAXA: 宇宙航空研究開発機構 (Japan Aerospace Exploration Agency)